

第4回懇談会で出された主な意見と質疑応答(要旨)

項目	ご意見	対応・主にその項目について検討する回		
中学校の学校規模・部活動に関して	小規模校	<p>選択教科、担任、行事、校務、生活指導などに関する一人の教員の業務負担が大きくなる。</p> <p>多くの教員が生徒の名前と顔を一致し、生徒の事をよく知ることができる。</p> <p>教員が複数の教科を担当せざるを得ない状況となる。</p> <p>球技大会や合唱コンクールなど学年単位の行事の場合、学級数が少ないと競争心が薄れ、生徒の取り組みようも熱中の度合いも低くなる</p> <p>部活動では、学校規模が小さくても、生徒のニーズにできるだけ答えようと少ない教員数で努力しているが、指導面での負担も大きい。</p> <p>教員の人事異動により開設できない部活動が出てくることもあり、その影響が子ども達に直接出てきてしまう。</p> <p>教員数が少ないため、工夫、改善にも限界があり、指導上の効果にも期待できないのではないか。</p>	第7回「全体総括」にて整理のうえ、意見提言にまとめる	
	適正規模校	<p>学年単位で活動することの多い中学校では、11教科の教員がどの学年にもいるような配置ができる学校規模が、学年の運営上や子ども達の指導上からも望ましい。</p> <p>適正な規模があると、効果的なクラス替えが可能である。</p> <p>適正な規模があると、部活動のスムーズな運営が可能である。</p> <p>適正な教員数が確保されることにより、突発的な事件、事故などへの対応もより万全に対応でき、安全管理面からも、子ども達の指導上からもプラスにつながる。</p>		
	大規模校	<p>教科によっては一つの学年を二人の先生が受け持つことになり、全学級の生徒を知る事ができない。</p> <p>生徒数、学級数が多くなると利用できる教室等が限られ、施設整備の面でも授業を進めにくい。</p> <p>部活動などで、体育館、グラウンド、特別教室などを希望通りに使用できないこともあり、様々な面で活動がしにくい場合がある。</p> <p>校外行事などでもバスなどの移動に時間がかかってしまうなど、運営管理面に支障があり、安全面にも不安がある。</p> <p>合唱コンクールで、時間の都合からプログラムの修正を余儀なくされるなど、子どものための取組みが制限されてしまう。</p>		
		6割を超える子ども達が部活動に取り組んでおり、子ども達の健全育成、人格形成という面で大きな役割を持っているため、学校規模や適正配置を考える上で大切な要因になる。		
	その他	<p>中学のさまざまな活動でも、地域のサポートや大学との連携での学生ボランティアを活用していくのも有効ではないか。</p>		
	通学区域について	<p>中学の場合、部活動などにより帰宅時刻が遅くなる生徒が多いが、統合によって通学距離が更に長くなることも想定されるため、特に通学安全の確保に配慮が必要である。</p> <p>統合を行う際には安全面を十分に考慮した通学区域の見直しすることが望ましい。</p>		第6回「考慮すべき事項」で検討
	適正規模について	<p>国の基準や現在の札幌市の現状からみて、12学級から18学級が中学校の適正規模である。</p> <p>19学級以上の規模の学校については、適性規模を超えることのみを理由として分離・新設を行わない。</p> <p>少なくともクラス替えの可能な規模である6学級は必要である。</p>		第7回「全体総括」にて整理のうえ、「中学校における適正な学校規模」として、意見提言にまとめる
	適正配置について	<p>統廃合は単に学校の規模だけで判断することなく、地域の状況なども踏まえて時間をかけて慎重に検討していく。</p> <p>中学校は校区が広いので、統廃合だけでなく通学区域の見直しも視野に入れて検討する。</p>		第7回「全体総括」にて整理のうえ、「中学校における適正な学校配置」として、意見提言にまとめる

【質疑応答】

質問	回答
教員の人事異動は、部活動に関する指導力というものを考慮に入れて行っているのか。	異動対象の教員がどういった部活動ができるかという情報は参考としている。ただし、部活動の面を考慮しつつも、教科ごとの人数確保を最優先にせざるを得ない。